



ニッポン・イデオロギー

The Japanese Ideology



※
オルタ
※

2023年12月9日(土)~17日(日)
BankART Station

ニッポンのイデオロギーは永久に不滅なのか？

YIPAN®

The Japanese Ideology

- 第1章 Dreamの意義
- 第2章 Gestellの解放
- 第3章 Deathの獲得
- 第4章 Calmの獲得
- 第5章 Voiceの再乱
- 第6章 Ideologyの真相

- Chapter 1: The Significance of Dream
- Chapter 2: The Liberation of Gestell
- Chapter 3: The Right of Death
- Chapter 4: The Acquisition of Calm
- Chapter 5: The Rebellion of Voice
- Chapter 6: The Truth of Ideology

ヴィジュアルアーツ／パフォーミングアーツの制度との折衝、社会的／民俗学的フィールドワークを重ね、挑発性とユーモアを併せ持つ活動を展開するアーティスト集団「オル太」が、「ニッポンのイデオロギー」がとる日常的形態のパフォーマティブな分析に6つの切り口で取り組みます。「取り止めのない一つの感情のようなものが、現在の日本の生活を支配しているように見える[...]」日本に限らず現在の社会に於けるこの切実で愚劣な大きな悲喜劇のト書きを暴露するのは、吾々にとって、極めてつまらない併し又極めて重大な義務にもなるのだ。(戸坂潤『日本イデオロギー論』、1935年)。その「つまらなさ」を「面白い」パフォーマンスに変容させるか、あるいは「日本イデオロギイから脱却した」と思いこんでいる人の足をひっぱって、おせっかいにも引きもどす(竹内好『日本イデオロギイ』、1952年)のか——オル太の最新作『ニッポン・イデオロギー』全6章、一挙上演!

Presented by OLTA, a Tokyo-based artist group that has developed humorous and provocative works through negotiating the systems of visual/performing arts and sociological/folklore fieldwork, *The Japanese Ideology* encompasses six chapters of a performative analysis of the everyday forms that the ideology takes. "There seems to be a kind of arbitrary emotion that dominates life in Japan today. [...] It is up to us to take on this boring but very urgent duty of exposing the staging of this desperate and stupid tragicomedy in our present society, not just in Japan." (Jun Tosaka, *The Japanese Ideology*, 1935) In *The Japanese Ideology* by OLTA, will this "boring" performance transform into an "interesting" one? Or will it "drag down those who think they have been freed from the Japanese ideology and pull them back in"? (Yoshimi Takeuchi, *The Japanese Ideology*, 1952) Full English information is available on the theater's website.

ニッポン・イデオロギー The Japanese Ideology

YPAMディレクション2023作品

世界初演

2023年12月9日(土)～17日(日) ※11日(月)、15日(金)休演

会場: BankART Station(みなとみらい線「新高島」駅構内)

12月	9(土)	10(日)	12(火)	13(水)	14(木)	16(土)	17(日)
14:30	第4章					第4章	
16:00	第5章					第5章	
17:30	第1章	第6章				第1章	第6章
19:00	第2章		第1章	第3章	第5章	第2章	
20:30	第3章		第2章	第4章	第6章	第3章	

1回券 通し券(各章1回)

オーティエンス(一般)	¥1,500	¥6,000
プロフェッショナル(YPAM登録者)	¥1,000	¥4,000

お取り扱い

YPAMチケットセンター

reserva.be/ypam2023



お問い合わせ: YPAM事務局 | 045-264-6514 | ticket@ypam.jp

YPAM(横浜国際舞台芸術ミーティング)は、同時代の舞台芸術に取り組む国内外のプロフェッショナルが、公演プログラムやミーティングを通して交流し、舞台芸術の創造・普及・活性化のための情報・インスピレーション・ネットワークを得るために集まるプラットフォームです。ほとんどのプログラムは一般のお客様にもご参加いただけます。詳細はypam.jpまで。

横浜国際舞台芸術ミーティング2023(YPAM2023) | 主催: 横浜国際舞台芸術ミーティング実行委員会(公益財団法人神奈川県芸術文化財団、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センター) 共催: 横浜市にぎわいスポーツ文化局 | 助成: 公益財団法人セゾン文化財団、公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド、リコー社会貢献クラブ・FreeWill | 協力: BankART1929、特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター、公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー | 後援: 外務省、文化庁、神奈川県、国際交流基金

Kanagawa Arts Foundation Yokohama Arts Foundation PARC OPEN YOKOHAMA



© Takeshi Hyakutou

オル太

2009年に結成したアーティスト集団。メンバーは、井上徹、斎藤隆文、長谷川義朗、メグ忍者、Jang-Chi。集団的な行為とそこで繰り広げられるコミュニケーションに着目し、絵画、パフォーマンス、ビデオなど様々な形式で作品を発表する。主な公演は、YPAMディレクション(2021年、2022年)、ロームシアター京都(2020年)、Lilith Performance Studio(スウェーデン、2015年)、ソウル・マージナル・シアター・フィスティバル(韓国、2014年)など。参加した主な展覧会は、青森県立美術館(2019年)、釜山ビエンナーレ(2016年)、金沢21世紀美術館(2014年)など。第14回岡本太郎賞受賞。

作: メグ忍者 | 演出: Jang-Chi

出演: 井上徹、内田結花、小山薫子、菊地侑紀、斎藤隆文、高山玲子、中川友香、メグ忍者

セノグラフィー: オル太 | 舞台設計: 長谷川義朗 | 音楽: 嶺川貴子、井上徹
イラストレーション: 斎藤隆文 | 衣装: 井上徹

照明: 藤本隆行(Kinsei R&D) | プロジェクション: 武部瑠人、柴田一秀
音響: 甲斐宣明(WHITELIGHT.Ltd) | 宣伝美術: Deokjun Yoon
英語字幕: 太田恵以 | 演出助手: 吉田アミ | 制作: 武田侑子



© Izuru Echigoya

内田結花



© Ryota Mori

小山薫子



© Hayata Noda

菊地侑紀



© Hideto Maezawa

高山玲子



© Saki Kojima

中川友香

委嘱・製作: 横浜国際舞台芸術ミーティング | 共同製作: ロームシアター京都
リサーチ協力: YCAM InterLab | 協力: 山口情報芸術センター[YCAM]

オル太のメンバーであるJang-Chiは、公益財団法人セゾン文化財団2023年度セゾン・フェロープログラムの助成を受けています。

YPAM

ロームシアター京都
ROHM Theatre Kyoto



THE SAISON FOUNDATION

BankART Station

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい5-1

みなとみらい線「新高島」駅地下1階(改札出て1階上がり4番出口そば)



JAPAN
LIVE YELL
project



オル太「ニッポン・イデオロギー」

主催: 特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センター、神奈川県民ホール(公益財団法人神奈川県芸術文化財団)、公益社団法人日本芸術家団体協議会

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業(アートキャラバン2)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
事業名: JAPAN LIVE YELL project 神奈川県アートキャラバンコンソーシアム2023